

ホーム名：グループホーム東神田の里 けやき通り					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務前に、ユニットの方針を読み合わせ、意識づけをして実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加できる利用者は、交流していただき、一年間を通じて日常的に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では毎回認知症高齢者の介護の方法や工夫を事例をもとに具体的に説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、月間行事カレンダーを提示し、日々の活動状況を報告してサービス向上に活かせるよう話し合っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で参加者の方へ認知症の方の過ごし方やケアの実践内容を報告し、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会を設置し、ユニット会議で、何が拘束に当たるかを話し合って入居者の行動を制限しないように努めている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、日々虐待防止に努めている。また、認知症介護実践研修や内部研修等を通じて虐待についての理解を深め、事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方はいないが、内部研修や外部研修を通じて制度に触れている。また、研修等でのパンフレットをファイルし、閲覧できるようにしており、今後、支援できるように努めている。		

9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には見学や面談を行い、十分な説明を行い、不安や疑問が解消できるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ユニットの入り口には、意見箱を設置させていただき、ご意見をいただけるように配慮している。又、面会時や、電話でいただいたご意見は職員間で随時申し送りをして、運営に反映できるように努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月の各会議での運営に関する課題を話し合い記録している。職員の意見を事業所全体へ反映できるように努めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員には働きながら資格が取れる様に資格支援制度を導入している。また、毎月希望休日を入れ、リフレッシュしていただいた後に個々が極力業務に集中して働けるような環境づくりに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎年研修計画をとり入れ、各ユニットリーダーが勉強して内部研修を行っている。また、外部研修の調整もおこなっており、極力参加して、スキルアップに繋げている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>法人内の研修会、親睦会で同業者との交流をはかり、情報交換を行い、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、入居前に来所していただき、ホームの雰囲気を感じていただいたあとに面談をおこなうが、アセスメントシートを利用しながら利用者の希望や心配事等、要望に耳を傾け、ご本人が納得できるように安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に来所していただき、ホームの雰囲気を感じていただいたあとにご家族の不安や要望を伺い、どのような支援をしていけばよいか説明している。また、面会を通じて、本人の生活状況を伝え、情報共有に努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を利用開始する前に、本人にとってより良いサービスを提供できるように、ご家族から細かく情報を聞き、本人の思いを傾聴し今必要としているサービスを見極め提案を行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは、取り組んでいただき、本人の好きなことはできる限り自由に取り組んでいただいている。手作り食の日は、家庭的な雰囲気を作り、知恵を聞かせていただき、本人を尊重しながら支援し、共に生活している関係づくりに努めている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族には夏祭りや敬老会に参加していただき、本人との絆を大切にしている。また、面会時に、定期的に散歩に行かれるので、家族としての絆を築きながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた際、いつでも気軽に来訪していただける雰囲気作りをしている。また、家族と一緒に買い物や昔利用していた美容院、外食店、旅館へ外出していただけるよう、本人と家族の意向を尊重し、本人の状態に応じて、極力馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや手作り食で利用者同士の関わり合い、利用者同士の関係を常に把握し、環境に影響が出ないように座席の配置に配慮し検討をしている。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでと同様に、サービスが終了しても必要に応じて支いいつでも援できるように記録の保管をし、開示できるように、相談に応じれるように努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の思いを日々の生活から得ている。希望や意向を介護計画書に反映させて、職員間で共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ひとり一人の情報は、ご家族や本人から日々収集し、個人ファイルに生活のニーズを更新し、職員間で共有している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ひとり一人の状態を口頭申し送りし、業務申し送りノートや個人記録ノートに記載し、現状の把握に努めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	録音機での記録は、個人レコーダーよるもので使用統一がされていないが、毎日、職員からの意見共有と毎月のカンファレンス等でモニタリングを実施し、日々、本人とご家族等の接点の中で望まれる意向のもと現状に即した介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の様子や気付き等は、パソコン、ノートに記録しているが、一目で分かるように一括管理シートに記入している。職員誰もが情報共有できるように努め実践や介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嗜好品等の買い物や外出等、その時々々の個々のニーズに合わせる事ができるだけよう融通をきかせ柔軟な支援やサービスができるよう取り組んでいる。
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の協力のもと学校行事や地域行事に参加している。また、隣接の第二東神田の里が、元気アップボランティアの利用を実践しているのので、当事業所も地域ボランティアの受け入れ、入居者が暮らしを楽しむことができるよう努める。
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院と提携歯科にて毎月定期的に利用者の往診を行っているが、これまでのかかりつけ医や他科への個別通院は、本人及び家族等の希望を主治医や訪問看護に伝え、指示を受けたのち随時受診を行っている。
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	入居者一括管理シートやバイタルチェック表、水分チェック表の生活記録の情報を訪問看護師に伝え相談し、入居者が適切なケアを受けられるように支援している。
		○入退院時の医療機関との協働	入院時には、ホームから職員が付き添い情報提供をし、介護サマリーを提出している。病院関係者との情報

32		<p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>提出している。病院関係者との情報交換は、介護職員が面会の際や定期の電話で情報の共有を行い、都度、施設管理者に現状と退院時期についての報告を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>母体の医療機関と連携をとり、話し合いをもって対応できるように支援している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の緊急マニュアルは作成している。また、法人内部研修を通じて応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。今後も定期的に勉強会を行い急変時のケアに備える。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を実施している。また、法人内に災害委員会を設置し、運営推進会議を通じて、自治会や市役所の方々と避難についての方法を話し合い、地域との協力体制を築いている。</p>		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの入居者の状態や性質にあわせた声掛けをおこなっている。トイレ誘導時には、本人の羞恥を損ねないように、他者に分らないよう配慮し、失敗があっても落ち着いた対応で本人の人格の尊重やプライバシーを損ねないように努めている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者に対して、自己決定がしやすいような雰囲気づくりに努め、日常の声掛け、コミュニケーションの中から本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの意向やペースを大切に、生活に支障を来さないよう配慮しながら、極力、本人の希望にそった生活リズムで過ごせるよう支援している。例えば、就寝時間は職員の都合にならないよう居室やフロアでテレビを観ていただき本人の意思を優先しその日をどのように過ごしたいか、希望にそった支援をしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>その人個人の馴染みの整容品を使っていたり、服装は、本人が決定できるように選んでいただいている。困難な方は職員がサポートし、意思決定できるように一緒に選んだりしている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に食事が楽しめるように手作り食を月に2回予定しており、仕込みから片付けまで、できることを取り組んで頂ける支援を行っている。今後の充実の為、地域の行事イベント等があれば積極的に参加できるように運営推進会議等で情報共有をしている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>バイタルチェック表と水分排泄チェック表を通じて、普段の食事と水分量を把握している。一人ひとりの状態に応じて、母体である病院の主治医と連携し、食べる量を調整したり、食事形態を変えて提供している。食事が摂れない時は、エンシュア等の栄養補助ドリンクを服用していただきその時々に応じた支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に、一人ひとりその日の状態に応じた口腔内ケアを行っている。定期的な訪問歯科にて口腔内清掃や義歯のチェックを行い、毎回結果報告、アドバイスを受け清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>水分排泄チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握し、立位がとれる方はトイレ誘導を行う等、自立に向けた支援ができるように努めている。誘導前は本人の自尊心を損ねないように声掛け等に配慮している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日二回の体操の他、ご家族と相談し、ヤクルトや野菜ジュースを提供させていただき、便秘にならないように腸内環境を健康に保てるように努めている。それでも不十分な時は、主治医や訪問看護師に働きかけて予防に取り組んでいる。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ケアの都合上一人ひとりの希望に応じた入浴はできていないが、本人の同意のもと外出前に入浴していただいたり、また、本人の気分がすぐれない時は、無理強いせず、ゆっくりしていただくか、足湯でリラックスをしていただいている。状況に応じて、ドライシャンプーの使用や清拭を行い、気分転換を図り、清潔保持に努めている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣、生活リズムを尊重した支援に努めている。例えば、夜間は眠たくなるまで、フロアでテレビを観ていただいたり、編み物をしていただいたり、会話をしたり、その時々の状況に応じて、落ち着いて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情は個々の情報ファイルに綴じて、職員間で共有し、一人ひとりの状態を把握している。状態の変化により臨時等の変更がある場合は、口頭申し送りや一括管理シート等に記入し、用途や内容を理解できるように服薬支援に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの能力を理解し、個々の趣味嗜好に応じ、本人がいきいきと過ごしやすい環境づくりに努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>気候が良い日は職員やご家族と公園へ散歩や買い物に出かけている。また、ご家族の協力により、馴染みの旅館や美容院へ毛染めに行き、ふれあいを大切にしている。地域の人や同法人である隣接の施設との外出交流は日時調整が困難で実現できていないが、地域行事や法人行事である夏祭りや敬老会等を通じて交流をしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を持つと紛失する危険性があるので大抵はホームで管理をしているが、本人に管理能力があり、手元に金銭を置きたいという方には自分で持っていただき、職員、ご家族と共有し、管理している。買い物したい場合は職員と一緒に出かけたり、職員が要望を聞いて、代行し、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持参していただいたり、お子様といつでも話ができるように居室に固定電話を置き、ワンタッチで通話ができるように必要な方々の電話番号を登録し利用していただいている。また、暑中お見舞いやご家族、お孫様等の手紙のやりとりを用い大切な人との繋がりを保てるように支援している。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間では、利用者が目で見えてわかるように表示をし、フロアや居室は冷暖房や加湿器を設置し毎日を快適に過ごせるように管理をしている。また、テレビは字幕を入れたり、映像で楽しむことができる音楽DVDを利用したりと耳が聞こえない方や難聴の方にも楽しめるよう配慮している。居室には日めくりカレンダーを置き、お花や飾り付けをして居心地よく過ごせるような工夫をしている。地域の方々等第三者からの意見も取り入れたいが、都合により現場を見学していただく時間がとれていない。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士が楽しく過ごしていただけるように、手作り食や、ユニット行事等で食事の仕込みや、仕事を共同で取り組んでいただいている。1人になりたい時は、居室で読書されたり、趣味をされたり、自己のペースを尊重した時間が送れるように支援している。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、カレンダー、外出時に撮った思い出の写真、馴染みのある家具や嗜好品等を置き、また、空気が乾燥すると調子を崩される方等には、加湿器を設置し、本人の居場所が心地よく確保できる空間づくりに努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>その日の利用者の状態にあわせて、極力、残存能力をいかした生活が送れるように配慮している。洗濯物をたたんでいただいたり、季節に合わせた折り紙に取り組みされたりしている。また、フロア内には、自己で安全に移動できるように手摺を設置したり、物事を認識できるように用途に合わせた表示をし「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	/	/



V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない